

岐阜市の注目すべき生きものたち

岐阜市版

レッドリスト・ブルーリスト

2015

概要版

平成 27 年 3 月 岐阜市

本書について

岐阜市は、金華山や長良川、田園地帯といった豊かな自然に恵まれた地域です。こうした多様な環境は、様々な生きものを育んできました。一方、時代の流れと共に都市化などが進み、豊かな自然は減少、分断、孤立化するとともに、人間の活動に伴い侵入した外来生物などの影響で、元々岐阜市内に生息していた生きものの中には絶滅が危惧されるものもいます。

岐阜市ではこれまで、多くの専門家や市職員、各種関係機関などによる調査により、市内に生息する生きものの情報を蓄積してきました。今回これらの情報（データ）を基に、岐阜市で特に注目してい

なければならない生きものについて、「岐阜市の注目すべき生きものたち 岐阜市版レッドリスト・ブルーリスト 2015」としてまとめました。本書はその概要版です。（詳細につきましては、本冊子をご覧ください。）

今回まとめたレッドリスト、ブルーリストに掲載した種以外にも、岐阜市には数多くの生きものが生息しています。こうした生きものの存在は、私たち人間の暮らしと様々な関わり合いがあります。このリストを通して今一度身の回りの生きものたちに目を向け、岐阜市の自然環境を再認識するきっかけにいただければ幸いです。

1. レッドリスト・ブルーリストとは

「レッドリスト」とは、絶滅が危惧される動植物種の一覧です。世界では 1966 年に国際自然保護連合(IUCN)から「レッドデータブック(絶滅のおそれのある野生生物のリスト)」が初めて発行されました。国内では 1989 年に我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物種分科会から「我が国における保護上重要な植物種の現状」が発行されたことを皮切りに、環境省(当時の環境庁)、

都道府県でも「レッドデータブック」あるいは「レッドリスト」として発行・改訂が行われています。さらに市町村でも、より地域の現状に即したものをという視点から、すでに多くの地域で作成されています。

一方、「ブルーリスト」は、岐阜市内で生育・生息している外来生物種の一覧です。「ブルー」という言葉は、「レッド」に対する言葉として使用しました。



2. 選定体制

分野等	委員名	所属
委員長	◎ 田中俊弘	岐阜生物多様性研究会 代表
植物	近藤慎一	岐阜県植物研究会 会員
哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会 会員
鳥類	○ 大塚之稔	日本野鳥の会岐阜 代表
爬虫類	○ 矢部 隆	愛知学泉大学 現代マネジメント学部 教授
両生類	高木雅紀	岐阜県立岐阜高等学校 教諭
魚類	○ 向井貴彦	岐阜大学 地域科学部 准教授
昆虫類	○ 野平照雄	岐阜県昆虫分布研究会 会員、一般財団法人 自然学総合研究所 客員研究員
貝類	川瀬基弘	愛知みずほ大学 人間科学部 講師
甲殻類(十脚類)	兼 向井貴彦	岐阜大学 地域科学部 准教授

注) 名前の前の「◎」は岐阜市版レッドリスト等作成検討委員長、「○」は同検討委員、「兼」は他の分類群との兼務を示す。

＜その他協力者＞ (50音順、敬称略)

大塚英樹 田上正隆 中島和典 藤原麒一郎 箕浦博之 村瀬文好 矢追雄一

3. 選定対象種群

岐阜市がこれまで生物のデータベースとして整理してきた以下の分類群を対象としました。

植物：維管束植物（シダ植物、種子植物）

動物：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類（十脚類）

4. レッドリスト

(1) カテゴリー

区分	基本的な考え方
絶滅	市内では、すでに絶滅したと考えられる種。
野生絶滅	市内において、飼育・栽培下でのみ存続している種。
絶滅危惧Ⅰ類	市内において、絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
絶滅危惧Ⅱ類	市内において、絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来、「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧	市内において、存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
情報不足	市内において、評価するだけの情報が不足している種。

(2) 選定理由

記号	項目	選定理由
a	分布限界	北限や南限など、生育・生息地が分布の限界になっている。
b	希少	個体数が極めて少ない。
c	特殊環境	湿地や湧水地など限られた面積しかない環境や、小規模の開発によっても影響を受けやすい環境にのみ生育・生息している。
d	特異生態	寄生や腐生、共生など特異な生態のため、環境変化の影響を受け易い。
e	環境改変	各種開発行為あるいは放置により、生育・生息環境が減少・消失している。また、これにより個体数が減少している。
f	営利目的	採集・捕獲などにより個体数が減少している。
g	外来種の影響	外来種による捕食や生育・生息環境の競合により、個体数が減少している。

(3) 選定結果

市内で過去に生育・生息していたが現在は絶滅したとされる種にはジュンサイとシルビアシジミの合計 2 種を選定しました。また、管理下では生育・生息しているが、野生では絶滅したとされる種にはウシモツゴの 1 種を選定しました。このほか、絶滅の危機に瀕している種として、カテゴリ

一別に絶滅危惧Ⅰ類 101 種、絶滅危惧Ⅱ類 132 種、準絶滅危惧 165 種、情報不足 64 種をそれぞれ選定しました。

以下に、分類群別・カテゴリ別の種数と、カテゴリごとの代表的な種の概要や写真を掲載しています。

(単位：種)

分類	カテゴリ						合計
	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足	
植物	1	0	72	100	101	35	309
動物							
哺乳類	0	0	2	0	8	0	10
鳥類	0	0	8	4	10	0	22
爬虫類	0	0	0	0	1	5	6
両生類	0	0	1	2	2	6	11
魚類	0	1	7	7	17	4	36
昆虫類	1	0	3	8	8	5	25
貝類	0	0	8	9	16	9	42
甲殻類(十脚類)	0	0	0	2	2	0	4
小計	1	1	29	32	64	29	156
合計	2	1	101	132	165	64	465

絶滅

植 物：ジュンサイ（岐阜県：－、環境省：－）

ジュンサイは、ため池などに生育する水生植物で、寒天状の膜に包まれた若芽が食材にされることで知られています。かつては三田洞に生育していましたが、現在は見られなくなりました。



ジュンサイ（市外撮影）

昆虫類：シルビアシジミ

（岐阜県：絶滅、環境省：絶滅危惧ⅠB類）

シルビアシジミは、羽を広げた大きさが 25mm 前後のチョウです。市内ではかつて雄総、黒野、金華山で、また、県内でも大垣市、羽島市で記録がありましたが、近年はいずれの場所での記録がなく、絶滅したと考えられ、岐阜県のレッドリストでも「絶滅」とされています。



シルビアシジミ

野生絶滅

魚 類：ウシモツゴ（岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類、環境省：絶滅危惧ⅠA類
岐阜県条例：指定希少野生生物）

ウシモツゴは、岐阜県、愛知県、三重県の東海 3 県の固有種で、水田水路の改変やため池への外来魚の放流などによって、激減しています。

現在、移植放流を除くと野生生息地は全国でも 10 地点以下しか残っていません。市内でも野生生息地は無く、管理の下で生き永らえています。



ウシモツゴ（関市産）

絶滅危惧Ⅰ類

植物はミズニラ、カザグルマ、ヒメコウホネ、イヌセンブリ、セッコク、エンシュウムヨウラン、サギソウなど72種、哺乳類はヤマコウモリ、ヒナコウモリの2種、鳥類はヨタカ、シロチドリ、コアシサシ、サンショウクイなど8種、両生類はカスミサンショウウオの1種、魚類はニホンウナギ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、トウカイヨシノボリなど7種、昆虫類はベニイトトンボ、アオハダトンボ、アオヤンマの3種、貝類はナタネキバサナギガイ、イボイボナメクジ、クチベニマイマイ、イシガイなど8種を選定しました。



サギソウ



ヤマコウモリ



シロチドリ



カスミサンショウウオ



シロヒレタビラ



アオハダトンボ



クチベニマイマイ(市外産)

絶滅危惧Ⅱ類

植物はピロードシダ、ツメレンゲなど100種、鳥類はバン、サシバなど4種、両生類はナゴヤダルマガエル、ニホンアカガエルの2種、魚類はスナヤツメ北方種、ヤリタナゴなど7種、昆虫類はヒメタイコウチ、コクロオバボタルなど8種、貝類はレンズガイ、トンガリササノハガイなど9種、甲殻類(十脚類)はミゾレヌマエビ、ヌマエビ北・中部群の2種を選定しました。



ツメレンゲ



サシバ



ナゴヤダルマガエル



ヤリタナゴ



ヒメタイコウチ



レンズガイ



ミゾレヌマエビ

<写真提供者>

市原俊 大塚英樹 大塚之稔 梶浦敬一 川瀬基弘
 近藤慎一 佐藤克則 鈴木彰 高木雅紀 中島和典
 名和秀雄 野平照雄 向井貴彦 矢部隆
 岐阜市自然環境課

ヒナコウモリ 絶滅危惧Ⅰ類	アオハダトンボ 絶滅危惧Ⅰ類	ヒメコウホネ 絶滅危惧Ⅰ類
ナタネキバサナギガイ (市外産) 絶滅危惧Ⅰ類	シロヒレタビラ 絶滅危惧Ⅰ類	
サンコウチョウ 準絶滅危惧	カスミサンショウウオ 絶滅危惧Ⅰ類	ソウシチョウ 侵入ランクC
ニホンイシガメ 準絶滅危惧	サワガニ 準絶滅危惧	ウシガエル 侵入ランクA
	ブルーギル 侵入ランクA	オオキンケイギク 侵入ランクA
	アライグマ 侵入ランクA	
	ホクベいかみつきガメ (市外撮影) 侵入ランクC	

(表紙写真の種名など)

準絶滅危惧

植物はマンサク、カタクリなど101種、哺乳類はコキクガシラコウモリ、カヤネズミ、ニホンリスなど8種、鳥類はカイツブリ、オオタカ、サンコウチョウなど10種、爬虫類はニホンシガメの1種、両生類はアカハライモリ、アズマヒキガエルの2種、魚類はカワヒガイ、アカザなど17種、昆虫類はモートンイトトンボ、トラフカミキリなど8種、貝類はナガオカモノアラガイ、コオオベソマイマイなど16種、甲殻類（十脚類）はサワガニ、モクズガニの2種を選定しました。



カタクリ



カヤネズミ



オオタカ



ニホンシガメ



アズマヒキガエル



アカザ



モートンイトトンボ



コオオベソマイマイ



モクズガニ

情報不足

植物はガガブタ、エビネなど35種、爬虫類はタカチホヘビ、シロマダラなど5種、両生類はオオサンショウウオ、ヤマアカガエルなど6種、魚類はコイ、マハゼなど4種、昆虫類はクツワムシ、ヨツボシカミキリなど5種、貝類はキセルモドキ、カワシンジュガイなど9種を選定しました。



エビネ(市外撮影)



タカチホヘビ



ヤマアカガエル



マハゼ(羽島市産)



クツワムシ



キセルモドキ(市外産)

レッドリスト掲載種一覧

植物 1

注「選定理由」の記号は、「4.(2)選定理由」をご覧ください。

絶滅	選定理由	絶滅危惧Ⅰ類	選定理由	絶滅危惧Ⅰ類	選定理由	絶滅危惧Ⅱ類	選定理由	絶滅危惧Ⅱ類	選定理由
ジュンサイ	b, c, e, f	ヒカゲスミレ	b, c, e	キツネノカミソリ	b, c, e	ホソバナウナギツカミ	b, c, e	ツルシキミ	b, c, e
絶滅危惧Ⅰ類	選定理由	ミスユキノシタ	b, c, e	ホシクサ	b, c, e	ネバリタデ	b, c, e	ニガキ	b, c, e
ミズニラ	b, c, e	ギンリョウソウモドキ	b, c, d, e	イトヌノヒゲ	b, c, e	フシグロ	b, c, e	エンコウカエデ	b, c, e
カミガモシダ	b, c, e	ベニドウダン	b, c, e, f	シロイヌノヒゲ	b, c, e	ミヤマハコベ	b, c, e	キツリフネ	a, b, c, e
メヤブソテツ	b, c, e	ギンレイカ	b, c, e	ミスタカモジ	b, c, e	アオハコベ	b, c, e	ナガバノスミレサイシン	b, e
ヘラシダ	b, c, e	アイナエ	b, c, e	ウラシマソウ	b, c, e	シデコブシ	b, c, e	エイザンスミレ	b, c, e
ムカゴイラクサ	b, c, e	イヌセンブリ	b, c, e	オニスゲ	b, c, e	マツブサ	b, c, e	ヒシ	b, c, e
ミヤコミズ	b, c, e	ジュズネノキ	b, c, e	カンガレイ	b, c, e	マツモ	b, c, e	ハリギリ	b, c, e
シロバナサクラタデ	b, c, e	シモバシラ	b, c, e	コマツカサススキ	b, c, e	ヒメオトギリ	b, c, e	シヤク	b, c, e
ニッケイ	b, c, e	ヒメサルダヒコ	b, c, e	ムギラン	b, c, d, e, f	ヤマハタザオ	b, c, e	ハルリンドウ	b, c, e
カザグルマ	b, c, e, f	ラショウモンカズラ	b, c, e	キンラン	b, c, d, e, f	ジャニンジン	b, c, e	アケボノソウ	b, c, e
クサボタン	b, c, e, f	ミスネコノオ	b, c, e	サイハイラン	b, c, d, e, f	ミズタガラシ	b, c, e	センブリ	b, c, e
トウゴクサハノオ	b, c, e	ミズトラノオ	b, c, e	セッコク	b, c, d, e, f	ユリワザビ	b, c, e	スズサイコ	b, c, e
バイカモ	b, c, e	ヒメナミキ	b, c, e	オニノヤガラ	b, c, d, e	ハタザオ	b, c, e	ヤママルリソウ	b, c, e
ヘビノボラス	b, c, e	オオアブメ	b, c, e	アキザキヤツシロラン	b, c, d, e	ツメレンゲ	b, c, e, f	ニシキゴロモ	b, c, e
オグラコウホネ	b, c, e	イヌノフグリ	b, c, e	エンジュウムヨウラン	b, c, d, e	ヒメレンゲ	b, c, e	ヒキオコシ	b, c, e
ヒメコウホネ	b, c, e	イワタバコ	b, c, e	コケイラン	b, c, d, e	ツルネコノメソウ	b, c, e	コンシロネ	b, c, e
ヒツジグサ	b, c, e, f	イヌタヌキモ	b, c, d, e	サギソウ	b, c, d, e, f	ヒメウツギ	b, c, e	ヒメシロネ	b, c, e
ヒトリシズカ	b, c, e	タヌキモ	b, c, d, e	絶滅危惧Ⅱ類	選定理由	タマアジサイ	b, c, e	ウツボグサ	b, c, e
フタリシズカ	b, c, e	ウグイスカグラ	b, c, e	ミスズギ	b, c, e	ヤマアジサイ	b, c, e	タツナミソウ	b, c, e
モウセンゴケ	b, c, d, e	スイラン	b, c, e	ウチワゴケ	b, c, e	コチャルメルソウ	b, c, e	イヌゴマ	b, c, e
ヤマエンゴサク	b, c, e	サワギク	b, c, e	クジャクンダ	b, c, e, f	ヤブサンザシ	b, c, e	ツルニガクサ	b, c, e
ヒロハコロンソウ	b, c, e	ヘラオモダカ	b, c, e	ピロードシダ	b, c, e, f	ナメラダイモンジソウ	b, c, e	ハダカホオズキ	b, c, e
チダケサシ	b, c, e	スプタ	b, c, e	ヤマモモ	a, b, c, e	カワラサイコ	b, c, e	シノクサ	b, c, e
アカショウマ	b, c, e	ヤナギスプタ	b, c, e	オノエヤナギ	b, c, e	ワレモコウ	b, c, e	ママコナ	b, c, d, e
ウラジロウツギ	b, c, e	コウガイモ	b, c, e	カテンソウ	b, c, e	タンキリマメ	b, c, e	クチナシグサ	b, c, e
タヌキマメ	b, c, e	アマナ	b, c, e	カナビキソウ	b, c, d, e	ヤマアイ	b, c, e	ソクズ	b, c, e
ミヤマカタハミ	b, c, e	ミヤマナルコユリ	b, c, e	サデクサ	b, c, e	コクサギ	b, c, e	オミナエシ	b, c, e

レッドリスト掲載種一覧

植物 2

絶滅危惧Ⅱ類	選定理由	準絶滅危惧(1)	選定理由	準絶滅危惧(2)	選定理由	準絶滅危惧(3)	選定理由	情報不足	選定理由
ツルカノソウ	b, c, e	ホソバカナワラビ	b, e	キハダ	a, b, e	スズメノハコベ	b, e	イヌスギナ	b
サウギキョウ	b, c, e	クサソテツ	b, e	ヒメハギ	b, e	オオカモノキ	b, e	コハナヤスリ	b
キキョウ	b, c, e, f	コウヤワラビ	b, e	ウタウルシ	b, e	タニウツギ	b, e	ヒメイトラノオ	b
ヌマダイコン	b, c, e	イヌガヤ	b, e	コハウチワカエデ	b, e	タニギキョウ	b, e	トクワシダ	b
イヌヨモギ	b, c, e	カワラハノキ	b, e	ツリフネソウ	b, e	カワラハハコ	b, e	オウセベニシダ	b
ミヤマヨメナ	b, c, e	スダジイ	b, e	タラヨウ	b, e	カワラヨモギ	b, e	ミヤマウラボシ	b
センダングサ	b, c, e	クヌギ	b, e	ミツバウツギ	b, e	ヤブタバコ	b, e	カシワ	b
タウコギ	b, c, e	イチイガシ	b, e	ケンボナン	b, e	サワアザミ	b, e	サンショウソウ	b
リュウノウギク	b, c, e	タニソバ	b, e	トウグミ	b, e	ヤクシソウ	b, e	マツグミ	b, d
ヤマニガナ	b, c, e	サワハコベ	b, e	アキグミ	b, e	フジバカマ	b, e	ウナギツカミ	b
センボンヤリ	b, c, e	アブラチヤン	b, e	シロバナオオタチツボスミレ	b, e	オグルマ	b, e	ヌカボタデ	b
フトヒルムシロ	b, c, e	シロモジ	b, e	ナガバタツボスミレ	b, e	ナガバノコウヤボウキ	b, e	オオヤマレンゲ	b
ホツモ	b, c, e	カゴノキ	a, b, e	スミレサイイン	b, e	メナモミ	b, e	イヌガシ	a, b
コオニユリ	b, c, e	ヤマグルマ	b, e	ヒメアキスミレ	b, e	シロバナタンポポ	b, e	イシモチソウ	b, d
ナルコユリ	b, c, e	ニリンソウ	b, e, f	キブシ	b, e	サワオグルマ	b, e	キケマン	b
アマドコロ	b, c, e	ムベ	b, e	ゴキツツ	b, e	アギナシ	b, e	クサフジ	b
ノハナショウブ	b, c, e	マタタビ	b, e	キカラスウリ	b, e	シライトソウ	b, e	ノウルシ	b
アヤメ	b, c, e, f	ミヤマキケマン	b, e	ミズマツバ	b, e	チゴユリ	b, e	ハナノキ	b
ニッポンイヌノヒゲ	b, c, e	ヤマガラス	b, e	ミズキ	b, e	カタクリ	b, e	シロスミレ	b
ヒメコスガサ	b, c, e	ワサビ	b, e, f	ツボクサ	b, e	ノカンゾウ	b, e	ヒメビシ	b
ヒメノガリヤス	b, c, e	マンサク	b, e	ウシミツバ	b, e	カキツバタ	b, e, f	タチモ	b
チョウセンガリヤス	b, c, e	オノネンゴサ	b, e	オオバチドメ	b, e	ホソイ	b, e	ヒトツバタゴ	b
オガルカヤ	b, c, e	トリアシショウマ	b, e	ムカゴニンジシ	b, e	トウササクサ	b, e	シオジ	b
オオハンゲ	b, c, e	ガクウツギ	b, e	アブラツツジ	b, e	コメガヤ	b, e	ガガバタ	b
マツバスゲ	b, c, e	ミカワチャルメルソウ	b, e	ヒカゲツツジ	b, e	ミヤコザサ	b, e	マメダオシ	b
クロヒサスゲ	b, c, e	コゴメウツギ	b, e	カラタチバナ	b, e	イブキザサ	b, e	ツシカソウ	b
オオハライ	b, c, e	ウタゲカマツカ	b, e	リュウキュウマメガキ	b, e	イヌアワ	b, e	キセウタ	b
ノテンツキ	b, c, e	テリハノイバラ	b, e	クロミノシゴリ	b, e	ナガエミクリ	b, e	オケラ	b
フイ	b, c, e	ミヤマフユイチゴ	b, e	アオダモ	b, e	ヒメガマ	b, e	オナモミ	b
ギンラン	b, c, d, e, f	クサイチゴ	b, e	リンドウ	b, e	クロカワズスゲ	b, e	ヒルムシロ	b
ツチアケビ	b, c, d, e	ホドイモ	b, e	オオアリドオシ	b, e	サンカクイ	b, e	クロホシクサ	b
カキラン	b, c, d, e, f	ジャケツツイバラ	b, e	ナギナタコウジュ	b, e			ウマスゲ	b
クロヤツシロラン	b, c, d, e	カワラケツツメイ	b, e, g	ミゾコウジュ	b, e			オオアオスゲ	b
トンボソウ	b, c, d, e	シラキ	b, e	マルバノホロシ	b, e			マメヅタラン	b, d
カヤラン	b, c, d, e	マツカゼソウ	b, e	サワトウガラシ	b, e			エビネ	b, d

レッドリスト掲載種一覧

動物

【哺乳類】		【爬虫類】		【魚類】		【昆虫類】		【貝類】	
絶滅危惧Ⅰ類	選定理由	準絶滅危惧	選定理由	準絶滅危惧	選定理由	準絶滅危惧	選定理由	準絶滅危惧	選定理由
ヤマコウモリ	b	ニホンイシガメ	b, e, f, g	ヌマツ	e	ウラギンズジキョウモン	b, e	コヤママイマイ	b
ヒナコウモリ	b	情報不足	選定理由	タカハヤ	e	クロゲンゴロウ	b, e	コオオベツマイマイ	b
準絶滅危惧	選定理由	クサガメ	b	カワヒガイ	d, e	ベーツヒラタカミクリ	b, c, e	オトメマイマイ	b
ニホンジネズミ	c	ニホンスッポン	b	イトモロコ	e	トラフカミクリ	b, c, e	ヒルゲンドルフマイマイ	b
ヒメズ	c	タチホヘビ	b, c, d, e	ニシシマドジョウ	e	情報不足	選定理由	情報不足	選定理由
キクガシラコウモリ	c	ジムクリ	b, c, d, e	トウカイコガタスジシマドジョウ	e	オグマサナエ	b, e	コシダカヒメノアラガイ	b
ヨキクガシラコウモリ	c	シロマダラ	b, c, d, e	ホトケドジョウ	e	クツワムシ	b	モノアラガイ	b, e
ハタネズミ	c	【両生類】		ナマズ	e	ゴマフツツガ	b, e	ヒメオカモノアラガイ	b
カヤネズミ	e	絶滅危惧Ⅰ類	選定理由	アカザ	b, e	エゾスジトウ	b, e	キセルモドキ	b
ニホンリス	c	カスミサンショウウオ	a, b, e	アユ(天然遡上)	e	ヨツボシカミクリ	b, e	ヒラベッコウ	b
ムササビ	c	絶滅危惧Ⅱ類	選定理由	ボラ	b, e	【貝類】		ピロウドマイマイ属の一種	b
		ナゴヤダルマガエル	b, c, e	スズキ	b, e	絶滅危惧Ⅰ類	選定理由	カワシラユガイ	b, d, e, f, g
		ニホンアカガエル	b, c, d, e	ドコ	e	ナタネキササナギガイ	b, c	カラスガイ	b, d, e, f, g
		準絶滅危惧	選定理由	ヌマチチブ	e	イボイボナメクジ	b, d	マシジミ	b, e
		アカハライモリ	b	シマヨシノボリ	e	クチベニマイマイ	b		
		アズマヒキガエル	e	ゴクラクハゼ	e	ミヤママイ(クワイマイマイ亜種)	b	【甲殻類(十脚類)】	
		情報不足	選定理由	ウキゴリ	e	タガイ	b, d, e, f, g	絶滅危惧Ⅱ類	選定理由
		オオサンショウウオ	a, b	情報不足	選定理由	オハエボシガイ	a, b, d, e, f, g	ミリスマエビ	b, e
		タゴガエル	b, e	コイ	e, g	カタハガイ	a, b, d, e, f, g	ヌマエビ北・中部群	b, e
		ツチガエル	b, c, e	カワアナゴ	b, e	イシガイ	b, d, e, f, g	準絶滅危惧	選定理由
		ヤマアカガエル	b, c, d, e	マハゼ	b, e	絶滅危惧Ⅱ類	選定理由	サワガニ	e
		モリアオガエル	b, c, d, e	アシシロハゼ	b, e	ヒメマルマメタニシ	a, b, e	モクスガニ	e
		カジカガエル	b	【昆虫類】		クロダカワニナ	b, e		
		【魚類】		絶滅	選定理由	ナミギセル	b, e		
		野生絶滅	選定理由	シルビアンジミ	e	ミジンナタネガイ	b		
		ウシモツゴ	b, e, g	絶滅危惧Ⅰ類	選定理由	レンズガイ	b		
		絶滅危惧Ⅰ類	選定理由	ベニトドンボ	b, e	ヤマタカマイマイ	b		
		ニホンウナギ	b, d, e	アオハダトンボ	b, e	ヌマガイ	b, d, e, f, g		
		イチモンジタナゴ	b, d, e, f	アオヤンマ	b, e	マツカサガイ	b, d, e, f, g		
		シロヒレタビラ	b, d, e, f	絶滅危惧Ⅱ類	選定理由	トンガリササノハガイ	a, b, d, e, f, g		
		カワハタモロコ	b, e, g	ホンサナエ	b	準絶滅危惧	選定理由		
		デメモロコ	b, e	キイロヤマトンボ	b	キュウシウゴマガイ	b, e		
		ハリヨ	b, c, e	カワラバタ	b	マルタニシ	e		
		トウカイヨシノボリ	b, e, g	タガメ	b, e	オオタニシ	e		
		絶滅危惧Ⅱ類	選定理由	ヒメタイコウチ	b, e	ニホンケシガイ	b		
		スナヤツメ北方種	b, c, e	ミドリジミ	b	ヒラマキミズマイマイ	b		
		スナヤツメ南方種	b, e	ツマガロキチョウ	b	ナガオカモノアラガイ	b		
		ヤリタナゴ	d, e, f	クロコオハボタル	b, c, e	ヤマナメクジ	b		
		アブラボテ	d, e, f	準絶滅危惧	選定理由	ヒゼンキビ	b		
		アマゴ(サツキマス)	b, e	モートンイトトンボ	b, e	ウメムラシタ	b		
		カマキリ(アユカケ)	b, e	ナゴヤサナエ	b, d	タカキビ	b		
		カジカ小卵型	b, e	トラフトンボ	b, e	ヒメカサキビ	b		
				マイコアカネ	b	ケハダピロウドマイマイ	b		

- 選定理由
- a: 分布限界
 - b: 希少
 - c: 特殊環境
 - d: 特異生態
 - e: 環境改変
 - f: 営利目的
 - g: 外来種の影響

5. ブルーリスト

(1) 基本定義

本来市内に自然分布していなかったが、人為的影響で侵入した生物。

(2) カテゴリー

カテゴリー	内容
侵入ランクA	市内に広範囲に分布・定着しているもの。
侵入ランクB	市内への分布は局所的であるもの。
侵入ランクC	市内への侵入は初期段階もしくは未定着のもの。

(3) 選定結果

市内に生育・生息する外来生物は、植物 200 種、動物 85 種の合計 285 種におよびます。このうち、侵入ランクAに該当する種として 47 種、侵入ランクBに該当する種として 81 種、侵入ランクCに該当する種として 157 種がそれぞれ挙げられました。

右に、分類群別・カテゴリー別の種数、以下に、カテゴリーごとの代表的な種の写真を掲載しています。

(単位：種)

分類	カテゴリー			合計	
	侵入ランクA	侵入ランクB	侵入ランクC		
植物	14	56	130	200	
動物	哺乳類	4	1	0	5
	鳥類	2	0	1	3
	爬虫類	1	0	1	2
	両生類	1	0	0	1
	魚類	8	4	3	15
	昆虫類	6	15	19	40
	貝類	10	5	3	18
	甲殻類(十脚類)	1	0	0	1
	小計	33	25	27	85
合計	47	81	157	285	

侵入ランクA

植物はオオキンケイギク、セイタカアワダチソウなど 14 種、哺乳類はアライグマ、ハクビシンなど 4 種、鳥類はコジュケイ、カワラバト(ドバト)の 2 種、爬虫類はミシシッピアカミミガメの 1 種、両生類はウシガエルの 1 種、魚類はタイリクバラタナゴ、オオクチバスなど 8 種、昆虫類はアオマツムシ、セイヨウミツバチなど 6 種、貝類はスクミリンゴガイ、サカマキガイなど 10 種、甲殻類(十脚類)はアメリカザリガニの 1 種の合計 47 種が該当しました。



オオキンケイギク



アライグマ



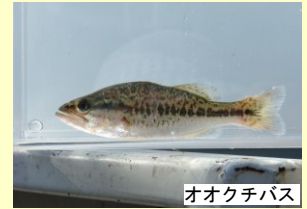
カワラバト(ドバト)



ウシガエル



ミシシッピアカミミガメ



オオクチバス



アオマツムシ



サカマキガイ(市外産)



アメリカザリガニ

侵入ランクB

植物はオランダミミナグサ、オオイヌノフグリ、ベニバナボロギク、キショウブなど 56 種、哺乳類はクリハラリスの 1 種、魚類はカラドジョウ、シマヒレヨシノボリなど 4 種、昆虫類はホソオチョウ、オオタコゾウムシなど 15 種、貝類はコモチカワツボ、ミジンマイマイなど 5 種の合計 81 種が該当しました。



キショウブ



クリハラリス



シマヒレヨシノボリ



オオタコゾウムシ(市外産)



ミジンマイマイ

侵入ランクC

植物はアレチウリ、ホテイアオイなど 130 種、鳥類はソウシチョウの 1 種、爬虫類はホクベイカミツキガメの 1 種、魚類はレッドテールキャットフィッシュ、マダラロリカリア、グッピーの 3 種、昆虫類はヨコツナサシガメ、ヒロヘリアオイラガなど 19 種、貝類はタテヒダカワニナ、イボカワニナ、カゴメカワニナの 3 種の合計 157 種が該当しました。



ホテイアオイ



ソウシチョウ



ホクベイカミツキガメ(市外撮影)



マダラロリカリア



ヨコツナサシガメ(市外撮影)



タテヒダカワニナ

ブルーリスト掲載種一覧

植物

動物

侵入ランクA
アレチヌスビトハギ
シロツメクサ
オッタチカタバミ
オオニシキソウ
アレチハナガサ
アメリカセンダングサ
コセンダングサ
ヒメムカシヨモギ
オオキンケイギク
ヒメジョオン
セイタイアワダチソウ
セイヨウタンポポ
オオカナダモ
コカナダモ
侵入ランクB (1)
アレチギンギク
ヨウシュヤマゴボウ
オランダミミナグサ
コハクベ
アリタソウ
ホナガイヌビユ
カラシナ
マメグンバイナズナ
オランダガラシ
ツルマンネングサ
イタチハギ
ハナカタバミ
アメリカフウロ
コニシキソウ
ナンキンハゼ
ニワウルシ
ホソバヒメミソハギ
ヒレタコボウ
メマツヨイグサ
マツヨイグサ
ユウゲンソウ
マルバルコウ
マメアサガオ
マルバアサガオ

侵入ランクB (2)
ヤナギハナガサ
ヒメオドリコソウ
アメリカイヌホオズキ
アメリカアゼナ
マラバウンラン
タチイヌノフグリ
オオイヌノフグリ
キキョウソウ
オオブタクサ
ヒロハホウキギク
オオアレチノギク
ベニバナボロギク
アメリカカタサプロウ
ハルジオン
ウラボシチチヨグサ
チチヨグサモドキ
オニゲシ
オオオナモミ
キショウブ
ニワゼキショウ
メリケンカルカヤ
ヒメコバンソウ
イヌムギ
シナダレスズメガヤ
コスズメガヤ
ネズミムギ
シマスズメノヒエ
キョウシュウノヒエ
オニゲシ
モウソウチク
セバヒモロコシ
メリケンガヤツリ

侵入ランクC (1)
コンテリクマゴケ
ホウライシダ
ナンバンカラムシ
ジャクチリソバ
ツルドクダミ
ヒメツルソバ
ハイミチヤナギ
ハイスイバ
ナガバギシギシ
エゾノギシギシ
オシロイバナ
クマルバザクロソウ
ヒメマツバボタン
ハゼラン
イヌモチナデシコ
コモチナデシコ
ムシロナデシコ
サクラマンテマ
アカザ
ケアリタソウ
コアザ
ホソアオゲイトウ
ノゲイトウ
ケイトウ
ホソバヒラギナンテン
フサジュンサイ
キウイフルーツ
ナガヒナゲシ
オニゲシ
セイヨウアブラナ
グンバイナズナ
アサガオ
オオカタイトゴメ
メキシコマンネングサ
カンヒザクラ
トキワサンザシ
ウマヤシ
ハリエンジュ
エビスグサ
クスダマツメクサ

侵入ランクC (2)
コムツツメクサ
ムラサキツメクサ
ナヨクサフジ
イモカタバミ
ムラサキカタバミ
ハイニシキソウ
アレチニシキソウ
トウカエデ
フウセンカズラ
ナツメ
イチビ
ムクゲ
ウサギアオイ
ヤノネボテンカ
サンシキスミレ
アレチウリ
オオマツヨイグサ
ミナトマツヨイグサ
アレチマツヨイグサ
ヒルザキキクシ
マツヨイグサ
オオフサモ
マツバゼリ
ウチワゼニクサ
トウネズミモチ
キョウチクトウ
ツルニチニチソウ
オオフタバムグラ
シバザクラ
セイヨウヒルガオ
アメリカネナシカズラ
アサガオ
ホシアサガオ
マルバクマツツラ
ダキバアレチハナガサ
ニガハッカ
ヨウシュハッカ
オランダハッカ
コショウハッカ

侵入ランクC (3)
チヨウセンアサガオ
セナリホオズキ
ヒロハフウリンホオズキ
テリミノイヌホオズキ
ワルナスビ
ウキアゼナ
ヒメアメリアゼナ
オオカワヂシャ
キササゲ
ヘラオオバコ
ツボミオオバコ
ノギシャ
フタクサ
キダチコングク
ホウキギク
ホソバノセンダングサ
タチアヲユキセンダングサ
ヤグルマギク
アレチノギク
コスモス
ダントボロギク
コゴメギク
ハキダメギク
クワイモ
ブナナ
フランスギク
ノボロギク
オオアワダチソウ
アカミタンポポ
イヌカミツリ
ナガバオモダカ
ラクキョウ
タカコゴロ
ナツズイセン
スイセン
タマズダレ
ヨウリイアオイ
ヒメヒメオウギズイセン
ノハカタカラクサ

侵入ランクC (4)
ムラサキツユクサ
ヒメヌカボ
コヌカグサ
コバンソウ
カモガヤ
オオニワホリ
オニウシノケグサ
ホソムギ
ドクムギ
ネズミホソムギ
オオクサキビ
ナガハグサ
ナギナタガヤ

【哺乳類】
侵入ランクA
ヌートリア
アラビグマ
シベリアイタチ
ハクビシン
侵入ランクB
クリハラリス
【鳥類】
侵入ランクA
コジュケイ
カワラバト(ドバト)
侵入ランクC
ソウシチョウ
【爬虫類】
侵入ランクA
ミシシビアカミミガメ
侵入ランクC
ホクベイカミツキガメ
【両生類】
侵入ランクA
ウシガエル
【魚類】
侵入ランクA
ゲンゴロウフナ
カネヒラ
タリクバラタナゴ
ギギ
カダヤシ
ブルーギル
オオクチバス
カムルチー
侵入ランクB
ハス
ツチフキ
カラドジョウ
シマヒレヨシノボリ

【魚類】
侵入ランクC
レッドテールキャットフィッシュ
マダラロリカリア
グッピー
【昆虫類】
侵入ランクA
アオマツムシ
アメリカシロヒトリ
シロテンハナムグリ
アルファルファタコゾウムシ
イネズミゾウムシ
セイヨウミツバチ
侵入ランクB
ホソオチョウ
シバツグ
カドマルカツオブシムシ
アカアシホシカムシ
シロオビカクシムシ
コウモク
ベグリアアテトウ
ガイマイゴミムシダマシ
ヒメゴミムシダマシ
コウモクモドキ
ツシマムナクホカミクリ
フタクサハムシ
ワタミゲナガゾウムシ
オオタコゾウムシ
アリカシガハチ
侵入ランクC
ヨコツナサシガメ
アワダチソウゲンバ
ヒロヘリアオイラガ
タケノボクローバ
ノシメダラメイガ
オオタバコガ
アメリカズアブ
コリリアキリゴミムシ
ヒメマダラカツオブシムシ
ミスジキリロテトウ

【昆虫類】
侵入ランクC
ウスバキスイ
サビカクムネチビヒラタムシ
トビイロテオネスイ
クリイロテオネスイ
カドコボソヒラタムシ
フタゲホソヒラタムシ
ヒメコクヌストモドキ
コメノゴミムシダマシ
ヤサイゾウムシ
【貝類】
侵入ランクA
スクミンゴガイ
ウスイロオカチグサ
サカマキガイ
ハブタエモ/アラガイ
トクサオカチヨウジガイ
ヒメコハクガイ
コハクガイ
チャコウラナメクジ
オナジマイマイ
タイワンシジミ
侵入ランクB
コモチカワツボ
ミジンマイマイ
ノハラノイシノタ
ノハラナメクジ
コハクオナジマイマイ
侵入ランクC
タテヒダカワニナ
イボカワニナ
カゴメカワニナ
【甲殻類(十脚類)】
侵入ランクA
アメリカザリガニ